

わが家の防災メモ

わが家の避難先		災害時、家族の集合場所	

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

■いざという時の連絡先

機 関 名	電 話 番 号	機 関 名	電 話 番 号
役 場	0747-62-2031	ガ ス 会 社	
事 件・事 故	110	電 話 会 社	
消 防・救 急	119	病 院	
電 力 会 社			

災害用伝言ダイヤル「171」

災害伝言ダイヤル171は、大規模な災害が発生した時の被災地と被災地以外の地域を結ぶ「声の伝言板」です。伝言の録音・再生は、一般電話、公衆電話、携帯電話・PHS（一部通信事業者を除く）から行えます。なお、利用にあたっての事前の契約等は不要ですが、通話料は必要です。

インターネットからは「災害用ブロードバンド伝言板(Web171)」、携帯電話・PHSからは各通信事業者による災害用伝言板サービスが利用できます。

伝言の録音方法

171 にダイヤルする

録音の場合 1 を押す

電話番号を市外局番から押す

30秒以内に録音する

伝言の再生方法

171 にダイヤルする

再生の場合 2 を押す

電話番号を市外局番から押す

再生される

非常用持ち出し品チェックリスト

項目をチェックしてみましょう。

- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食
- ☐ 貴重品
(預金通帳、印鑑、現金)
- ☐ 常備薬
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 衣類品
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 予備電池
- ☐ 携帯電話
- ☐ タオル

小さな子供のいる家庭は

- ☐ 粉ミルク
- ☐ 哺乳瓶
- ☐ 紙おむつ

ペットのいる家庭は

- ☐ ケージ
- ☐ ペットフード
- ☐ ふん尿の始末用品

非常持ち出し品は、夜間時の避難を前提に足下を照らす懐中電灯を始めとして替えの下着なども必要となります。

保存版

黒滝村 防 災 マニュアル



黒滝村マスコットキャラクター
「くろたん」

このマップを身近なところにおいて
防災対策に取り組みましょう。

はじめに

黒滝村防災マニュアルは、住民の皆さんが地域の防災を考えるために役立つ情報をまとめたものです。地震や水害などの自然災害は、いつ発生してもおかしくありません。想定される災害を知り、いざという時、あわてず行動できるように、この冊子を使って家族や地域で話し合しましょう。

防災・減災対策の基本

住民の皆さんの生命を守る局面で最も大切なことは、住民の皆さん自身の力であるといわれています。

災害による被害を少しでも軽減するために、行政が行う防災対策である「公助」とともに、自分の命は自分で守る「自助」、地域の安全は地域で守る「共助」を高めることが防災・減災の基本になります。



一人一人の
自覚に根ざした
自助

「自分の命・財産は自分で守る」

住民の役割

- 落ち着いて自分の身を守る
- 家族を守る
- 地域の地震や水害について知る
- 防災知識を身につける
- 災害・被害情報の収集

協力・補完

地域コミュニティ
などによる

共助

「隣近所での協力」

行政による
公助

「村が進める災害対策」

住民の役割

- 協力して消火・救出活動
- 地域防災活動の推進

事業所の役割

- 顧客、従業員などの安全確保
- 地域との助け合い

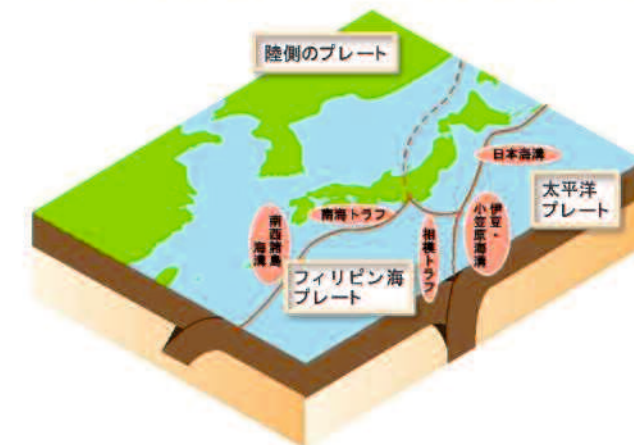
行政の役割

- 防災マップ等の作成及び公表
- 被害想定・被害軽減策の検討
- 地域防災体制の仕組みづくり

地震災害編

地震のおこるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こり方は、大きく「直下型地震」と「海溝型地震」の2種類に分けられます。

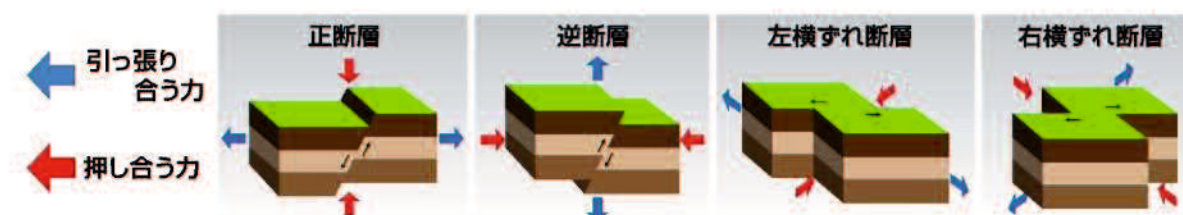


直下型地震

直下型地震は、内陸部にある活断層で発生する地震で、内陸型地震ともいいます。1995年の阪神・淡路大震災や2016年の熊本地震などは、直下型地震による災害です。

■直下型地震発生のしくみ

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が発生します。



海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。「太平洋プレート」と、「フィリピン海プレート」は、年間数cmの割合で「陸側プレート」にもぐりこんでいます。



震度と想定される被害

震度 4	震度 5弱	震度 5強
ほとんどの人が驚く。 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 座りの悪い置物等が、倒れることがある。	大半の人が恐怖を覚え、物につかまると感じる。 棚にある食器類や本が落ちることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	物につかまらなと歩くことが難しい。 棚にある食器類や本で落ちる物が多くなる。 ブロック塀が崩れることがある。
震度 6弱	震度 6強	震度 7
立っていることが困難になる。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。 倒れるものもある。	はわないと動くことができない。 耐震性の低い木造建物は、倒れるものが増える。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

今後想定される地震

文部科学省に設置された地震調査研究推進本部は、日本の主要な活断層で発生する地震や海溝型地震を対象に、地震の規模や一定期間内に地震が発生する確率を予測した「地震発生可能性の長期評価」（長期評価）を公表しています。

このうち、村に強い影響を及ぼす（最大で震度6強の揺れをもたらす）と想定される地震の発生確率は、以下表の通りです。

■村に影響を及ぼすと考えられる地震の長期評価

地震の型	断層名または領域・地震名	長期評価で予想された地震規模(マグニチュード)	地震発生確率*		村で予想される最大震度
			30年以内	50年以内	
直下型	奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	ほぼ0～5%	ほぼ0～7%	6強
直下型	中央構造線断層帯(金剛山地東縁)	6.9程度	ほぼ0～5%	ほぼ0～9%	6強
海溝型	南海トラフ	8～9クラス	70%程度	90%程度	6強

※歴史記録や調査研究等から分かった過去の地震活動記録を統計的に処理し、「今後ある一定期間内に地震が発生する可能性」を確率で表現した値。

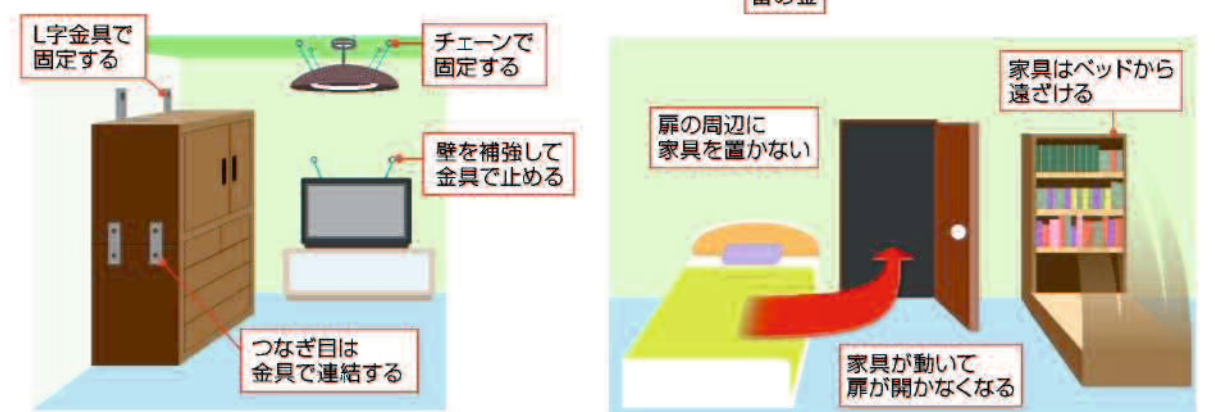
参考：地震調査研究推進本部資料（算定基準日：平成29年1月1日）

日ごろからの地震への備え

事前に行える安全対策

■家の中の安全確認

- 戸建住宅等の場合は、できるだけ2階で寝るようにしましょう。
- 家具には、転倒防止金具を取り付けましょう。
- 部屋の入口付近には物を置かないようにしましょう。
- テレビや置物等には、すべり止めを取り付けましょう。
- 食器棚、本棚などは、とめ金具を取り付けましょう。



■家の周囲の安全確認

ベランダ
植木鉢などの整理整頓をしておきましょう。

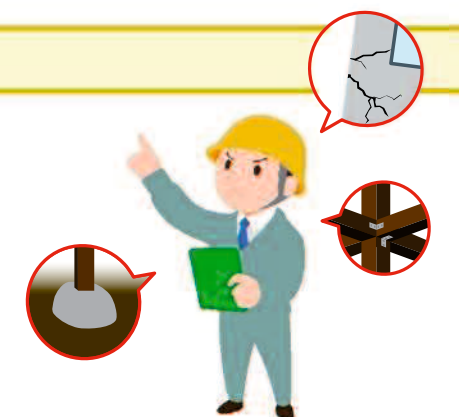
ブロック塀
ブロック塀はしっかり点検補強をしておきましょう。



耐震診断を受けましょう

地震の被害を軽減するためには、住宅や建築物の耐震性を高めることが重要です。

大きな地震が起きても自分の家は大丈夫なのか、耐震診断を受けて確かめましょう。



火災予防の対策を

各家庭のカーテン、カーペット、寝具などは防災品を使用し、消火器を備えましょう。また、火災での逃げ遅れを防ぐため、住宅用火災警報器を設置しましょう。

■住宅用火災警報器

火災警報器とは、火災により発生する煙や熱を自動的に感知し警報ブザーや音声により、いち早く知らせ、避難を促す機器です。法律により2006年6月から全ての住宅に設置が義務付けられています。

ただし、悪質な訪問販売にはご注意ください。



天井設置タイプ

消火器の使い方

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで火が燃え広がったら「早く逃げ」ましょう。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

- 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。
- ホースをはずして火元に向ける。
- レバーを強く握って噴射する。
- 左右にほうきでくようにする。
- 出口を背にして、煙や薬剤で退路を見失わないようにする。

応急手当の仕方

出血



- 傷口を清潔なガーゼやハンカチで強く押さえる（圧迫止血）。
- 骨折などで圧迫できない場合は、止血帯を巻く。傷口よりも心臓に近い部分をタオルや布などでかたく結び、結び目に棒などを差し込んで回転させ、血が止まるまで締め上げて固定する。
※壊死（えし）の危険があるので、必ず止血帯を巻いた時間を書き、30分に1回は締めを解くこと。

やけど



- 流水で十分冷やす（患部に直接強い水圧がかからないように注意）。
- 衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やす。
- 水疱（水ぶくれ）を破らない。
- 冷やした後は、消毒ガーゼか清潔な布で保護し、医療機関へ。

骨折



- 折れた部分に添え木（副木）をあてて固定し、医療機関へ。
- 適当な添え木がなければ、板、雑誌、傘、ダンボールなど身近にあるもので代用を。
- 患部を動かすのは禁物です。

ねんざ・脱臼



- 患部に湿布薬を貼って冷やす。
- 靴を履いたまま、上から三角巾や布で足首を固定する。
- 脱臼なら三角巾や風呂敷で患部が動かないよう腕を固定する。
- 無理に元に戻そうとすると神経や血管を破壊させることになるので注意する。

AEDの使い方

AEDは、自動体外式除細動器の略でコンピューターによって心臓のリズムを調べ、電気ショックが必要なかどうかを判断する機械です。一般の人でも、簡単に安心して使うことができるように設計されています。

電源ON

音声の指示に従う

・パッドを装着すると自動的に解析がスタート。
・「ショックが必要」のメッセージがあれば…

点滅ボタンを押す

大地震発生時に何をすべきか

いつ発生するか予想できない地震。日頃から地震の危険に対する意識を持ち、被害を最小限におさえましょう。

地震対策10ヵ条

- まずは身の安全を!**
ケガをしたら火の始末や避難が遅れてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。
- すばやく火の始末**
あわてず、冷静に行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。
- 戸を開けて出口の確保を**
振動でドアが開かなくなることも。すばやく戸を開けて避難口の確保を。
- 火が出たらすぐ消火**
万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。
- あわてて外に飛び出さない**
飛び出しはケガの元。冷静な判断を。
- 狭い路地やブロック塀には近づかない**
ブロック塀や自動販売機は倒壊の恐れが。すばやく避難を。
- 協力し合って応急救護**
地域ぐるみで協力し合って応急救護の体制を。
- 山崩れ、がけ崩れに注意**
居住地の自然環境を把握して、二次災害防止の心がけを。
- 避難は徒歩で**
マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。
- 正しい情報を聞く**
事実はひとつ。間違った情報にまどわされず的確な行動を。

■緊急地震速報が流れたら

村では、気象庁が発表する「緊急地震速報」を活用して、**震度4以上**の揺れが予想される場合、強い揺れが始まる数秒から数十秒前に**防災無線放送**により、地震による強い揺れが到達することをお知らせします（震源が近い場合は、緊急地震速報が間に合わないことがあります）。警報音のあと「**緊急地震速報大地震（おおじしん）です、大地震です**」と放送が流れたら周囲の状況に応じて、落ち着いてあわてずに、まず身の安全を確保しましょう。

もしも、こんな時に地震が起きたら…

もしも、子ども（乳幼児）が別の部屋にいたら…

- すぐに子どものところに駆けつけましょう。
- 子どもを抱き上げ、テーブルの下などに身をかくしましょう。

もしも、食事の支度中だったら…

- ガスの元栓を閉めるなど、火を消しましょう。
- やけどをしないように注意しながら、安全な場所で身をを守りましょう。

もしも、入浴中だったら…

- 屋内の安全な場所に避難しましょう。
- 窓や扉を開け、出口を確保しましょう。
- 裸でいる場合は危険なので、鏡などが割れた破片によるケガをしないように注意しましょう。

もしも、睡眠中だったら…

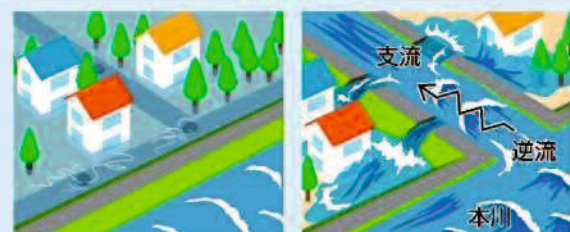
- 枕や布団などで頭を保護します。揺れが収まったら、声をかけ合って家族の無事を確認しましょう。
- 停電して暗闇の場合、ガラスの破片などでケガをしないよう、厚底のスリッパなどを枕元に置いておきましょう。

どんな時でも、あわてず落ち着いて行動することが大切です。

水害・土砂災害編

村で起こる水害を知る

内水はん濫



内水はん濫は、川の水位上昇などにより、水路で排水できなかった水や、本川から支流に逆流した水が街中へ溢れ出すはん濫です。

被害の特徴

- 大雨により短時間ではん濫が発生する場合があります。
- 低い土地から徐々に水が溜まります。

外水はん濫



外水はん濫は、川の水位が上昇し堤防を越えたり、堤防が水の勢いで流されたりして決壊し、川の水が街中へ大量に溢れ出すはん濫です。

被害の特徴

- 大量の水がすさまじい勢いで押し寄せ、内水に比べ深い浸水となる場合があります。
- 川の近くでは家屋が流される場合があります。
- 土砂の混じった濁流が街中へ流れ込み、水が引いても土砂がたまる場合があります。

村で起こる土砂災害を知る

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）



「がけ崩れ」は斜面が突然崩れ落ちる災害です。崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れた所まで届くことがあります。

土石流



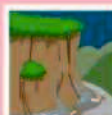
山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などの大量の水と一緒になって津波のように襲ってくるものを「土石流」といいます。

地すべり

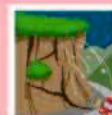


地面は地質の異なる層が積み重なっています。地下水等がすべりやすい層にしみ込み、そこから上の地層がすべり落ちるのが「地すべり」です。

前兆現象



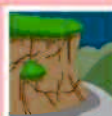
がけから水が湧き出ている



がけから小石がばらばら落ちてくる



急に川の水がにごり流木がまざる



がけに割れ目が見える



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる

日ごろからの水害・土砂災害への備え

いざという時にあわてないためには、事前の備えを行っておくことが大切になります。日頃から水災害が発生した場合について、自宅周辺がどうになってしまうか、避難を支援する必要がある人がいないかなど、この冊子を使って考えてみましょう。

避難経路の確認

あなたの家の位置を探して、想定される浸水や危険箇所の状況を確認しましょう

- ①あなたの家はどこですか？
- ②あなたの家のあたりは、どのぐらいの浸水の深さになりますか？
- ③土砂災害警戒区域はどこですか？



実際に避難経路を歩いてみよう

- ①地図上で、自宅や学校、職場などを探してみよう。
- ②地図上で、自分の地区の避難場所を見つけよう。
- ③地図上で、避難経路を想定してみよう。
- ④マップを片手に、実際の避難経路を歩き、実際の距離感や時間を知り、途中で危険な箇所が無い、逃げ込めそうな場所はあるかなど、調べてみよう。

家族や地域で話し合おう

家族や地域で、いざという時の高齢の方や子供などへの支援など、どう協力し合えるのかを話し合しましょう。



事前の対策をしよう

浸水してしまったら困るものは、2階以上へ置いておくなど、事前の対策を行うことも大切です。



事前の対策

雨水を貯めたり地面に浸透させることなどにより、短時間で多くの水が川に流れ出るのを防ぎ、洪水被害を軽減できます。

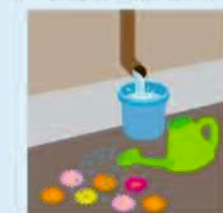
庭の土や植物も役に立っている

庭に土や植物があると、降った雨水が一度に流れず、自然に地面にしみ込んでいきます。



雨水をためて庭の水まきに

雨どいから流れ落ちる水をバケツにためておくと、晴れてから庭の水まきや花への水やりなどに利用できます。



庭にある池も役割があります

庭にある池も、雨水をいったんためる役割を持っています。



大雨のときはお風呂の水を流すのをちょっと待って

特に大雨のときは、お風呂の水を流すのをちょっと待って、ためておくのも工夫のひとつです。



身近なものでできる土のう・水のうの作り方

土のう作り



土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻いて補強します。プランターの代わりに水を入れた防災タンク（ポリタンク）なども利用できます。

水のう作り



ゴミ袋（40L程度）を二重にして、その中に半分程度の水（風呂の残り湯を使うと便利）を入れ、玄関などにすき間なく並べます。段ボールに入れて連結すれば、強度が増し、積み重ねることもできます。

水害・土砂災害発生時に何をすべきか

避難するときの心得

水災害時の避難は、実際の浸水が始まる前に行ってください。浸水が始まってからの避難は、濁流に巻き込まれるなどの危険が高まります。状況によっては、自宅の2階以上に避難することも大切です。避難するときの心得を学び、気をつけて避難を行いましょう。



動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。



歩きやすい「はき物」をはきましょう。長靴は、水が入ると重くなるのでやめましょう。



河川の近くなど、危険な場所へは近づかないようにしましょう。



歩いて避難できる深さは、ひざ下程度です。ただし、流れによっては足をすくわれる危険性があります。



地面が見えにくくなり、マンホールや水路などに落ちてしまう危険性があります。棒を使い、足元に注意して歩きましょう。



子どもやお年寄りの避難を手助けしましょう。（早めの避難が大切です。）

防災無線戸別受信機の電池切れにご注意ください

電池切れランプ
(電池がなくなると赤色で点灯します)



電池カバー（下に引くと開きます）

水害、土砂災害が発生するほどの強い雨が降るときなどは、村から防災無線を通じて発信される緊急連絡に特に留意ください。また、いざというときに情報が受信できるよう正しいお取り扱いをお願いします。

各家庭に設置している防災無線戸別受信機は、AC電源により動作していますが、停電の場合に備えて乾電池が入っています。この乾電池は停電だけでなく、放電等により約1～3年で消耗します。乾電池が消耗すると受信機のランプが赤色点滅し、放送終了後にブザー音が鳴ります。このような症状が出た場合は各家庭で乾電池（単2を2個）の交換をお願いします。乾電池を消耗したまま放置しておきますと、液漏れや錆びなどにより受信機故障の原因となりますのでご注意ください。

避難に役立つ情報

避難情報

避難情報の種類	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示（緊急）
発表の目安	- 大雨警報や洪水警報が発表されたとき。 - 土砂災害警戒情報が発表され、「奈良県土砂災害・防災情報システム」において、レベル1（2時間以内に基準値超過を予想）に達したとき。等	- 記録的短時間雨量情報が発表され更に降雨が予想されるとき。 - 土砂災害警戒情報が発表され、「奈良県土砂災害・防災情報システム」において、レベル2（1時間以内に基準値超過を予想）に達したとき。等	- 大雨特別警報（土砂災害）が発表され、土砂災害や家屋等の浸水害が発生したとき。 - 土砂災害警戒情報が発表され、「奈良県土砂災害・防災情報システム」において、レベル3（現在基準値を超過している）に達したとき。等 - 土砂災害緊急情報が発表されたとき。等
とるべき行動	いつでも避難が出来るように準備をはじめてください。特に、避難行動に時間を要する方は、避難所などの安全な場所へ避難行動を開始してください。	身の安全を確保し、家族、近所で助け合いながら避難をしてください。	ただちに避難をしてください。避難が困難と思ったら、自宅の2階や近所の高い建物へ避難しましょう。

気象情報

気象情報は、気象庁から報道機関等を通じてみなさんに伝えられる最も身近な避難に役立つ情報です。大雨時には、テレビやラジオに注意するとともに、より詳しい情報を知りたい場合は、インターネットを活用した情報収集も心がけましょう。

注意報・警報発表基準（黒滝村）			住民の皆さんの行動
大雨・洪水注意報 災害が起こるおそれがある場合	大雨	1時間雨量40mm	- テレビ・ラジオから最新の気象情報を入手 - 窓や雨戸など家の外の点検 - 避難所や非常時持ち出し品の確認
	洪水	1時間雨量40mm	
大雨・洪水警報 重大な災害が起こるおそれがある場合	大雨	1時間雨量70mm	- 避難の準備をする - 危険な場所に近づかない - 日頃と異なったことがあれば、市役所などに通報
	洪水	1時間雨量70mm	
大雨特別警報 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合			- 避難中の場合、直ちに避難を完了 - まだ避難していない人は直ちに避難を行う - 大雨や暴風のために屋外を移動すると命に危険が及ぶ場合は屋内安全確保

特別警報について

気象庁は、平成25年8月30日より「特別警報」の運用を開始しました。警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけます。「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

雨量情報 雨の降り方と強さ（1時間雨量）

10～20mm未満 やや強い雨	20～30mm未満 強い雨	30～50mm未満 激しい雨	50～80mm未満 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨

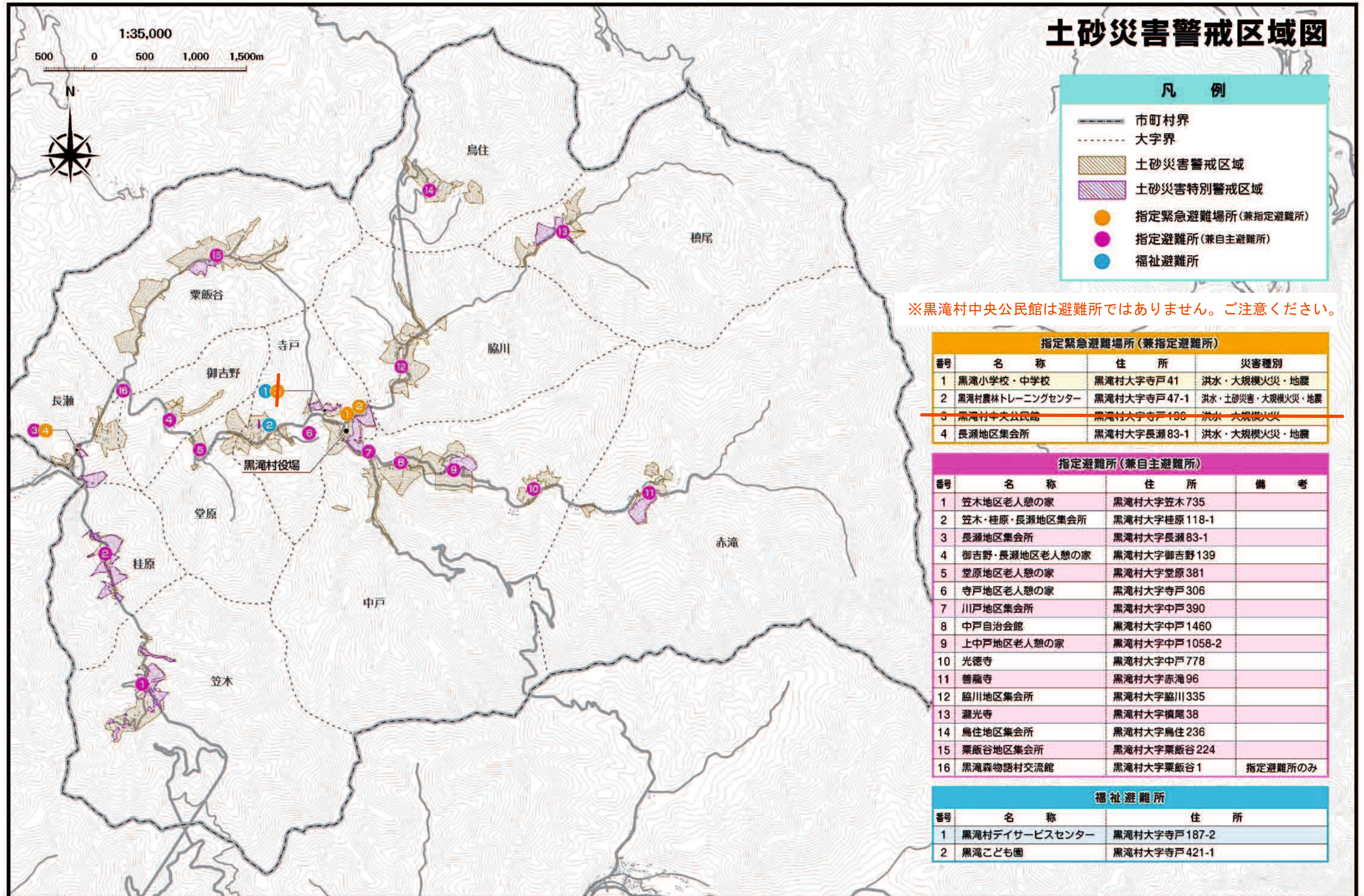
観光防災 Wi-Fi ステーション

観光情報収集の利便性向上と、迅速な防災情報の提供のために、村内5箇所に無料で利用できるWi-Fiアクセスポイント、カメラ、気象観測機器を設置しホームページで公開しています。避難の検討などにぜひご活用ください。



黒滝村LIVE映像
(黒滝村気象観測システム)

土砂災害警戒区域図



避難生活が長期にわたるとき

避難所の自主運営

災害時避難所では、大勢の人と共同生活を送ることになります。プライバシーの確保が難しいなど、不自由なことがたくさんありますが、互いに協力しあい、譲り合うことが大切です。



生活のルールや役割分担を決めましょう

地域防災リーダーや自主防衛組織のメンバーなどの皆さんが中心となって避難所運営委員会を開き、生活のルールや役割分担を決めましょう。

生活のルールや役割を守りましょう

避難所運営委員会で決めたルールや役割をみんなで守り、「自分たちのことは自分たちで」を基本に協力して生活しましょう。

病気やケガをしたときは

避難所などに、救護所が設置されます。病気やケガをしたときは、救護所を利用しましょう。

<救護所の役割>

傷病に対する応急手当
近隣の医療施設との連携など

災害ボランティアとの協働

大規模な災害が発生した場合、被災者を支援するために全国から多くのボランティアが駆けつけます。ボランティアを受け付ける災害ボランティアセンターは、必要に応じて、村役場などに開設され、支援を必要とする被災者との調整などを行います。支援内容や相談方法は開設後すぐに広報されますので、支援が必要な場合もしくはボランティア活動に参加したい場合は災害ボランティアセンターに相談しましょう。



災害ボランティアの活動例

- 被災者への炊き出し
- 救援物資の仕分け・配布・運搬
- 家屋の片付けや清掃
- 避難所や仮設住宅での生活者への支援
- 高齢者や子どもの話し相手 など

被災した直後は混乱し、これからの生活に不安を抱えることでしょう。そこにボランティアが駆け付け、精神的にも大きな支えになります。自立心を忘れず、少しでも早く元の生活に戻れるようボランティアと力を合わせて頑張りましょう。

悪質犯罪の注意事項

大規模な災害が起きると、いろいろな犯罪も起きる可能性があります。特に、避難所に避難している間に家が荒らされるなど被害が過去の災害でも報告されています。戸締りをしっかりし見回りをするなど、自分たちの家を地域で守りましょう。

悪質犯罪例

- 避難による不在家屋、店舗を狙った空き巣や出店荒らし
- 食料品、灯油などの生活必需品の暴利行為
- 家屋修理での高額な契約
- 女性や子どもを狙った性犯罪



ボランティアを装った犯罪も過去の災害で見られました。ボランティアにお手伝いを依頼する場合は、災害ボランティアセンターを通じて行いましょう。

被災後に受けられる支援

り災証明書の発行

被災による被害があったことが認定された家屋に対しては、申請により村役場が「り災証明書」を発行します。ただし、火災による被害については消防署が「り災証明書」を発行します。

り災証明書(村役場発行)		り災証明書(消防署発行)
風水害の場合	地震の場合	地震による火災の場合
①流 失	①全 壊	①全 焼
②床上浸水	②大規模半壊	②半 焼
③床下浸水	③半 壊	③そ の 他
	④一 部 損 壊	

生活再建に向けての各種支援

大規模な災害が発生した場合、り災した住民の皆さんが、一刻でも早く自力で生活できるように、村は県および関係機関と連携し、義援金・義援品の受け入れと配分、災害弔慰金や被災者再建支援法に基づく支援金などの支給、災害援護資金の貸付け、租税の減免や郵便・電話料金の免除などの各種支援措置を行います。

■義援金・義援品の受付・配分

大規模な災害の発生が報道されると、各方面から義援品や義援金の申出が寄せられます。そこで、村は県と連携し、希望する義援品の品目と送り先などについて報道機関を通じて広く公表し、受入れおよび配分を行います。また、必要場合は義援金を募集します。募集に当たっては、村において、交付内容および受付・配分方法を検討した上で実施します。

■生活・福祉対策

村、県および国が窓口となって行う生活・福祉に関する支援策には、次のようなものがあります。これらの実施に当たっては、法令や条例などに定められる各支援策の適用条件(対象世帯や限度額など)について個別に判断した上で、それぞれ必要な支援が行われます。

- 災害弔慰金および災害障害見舞金の支給
- 生活福祉資金(災害援護資金)の貸付
- 母子寡婦福祉資金の貸付
- 被災者生活再建支援金の支給

■その他

災害により住宅に被害を受けた住民の皆さんに対し、県、国などによる支援策として、民間賃貸住宅の紹介、県営住宅のあっせん、住宅金融公庫による融資などがあります。被害の状況などによりこれらの支援策が実施される場合、村は、制度の内容について住民の皆さんに周知を図ります。

また、村内の中小企業や農林業者の皆さんに対しては、必要に応じて県と連携して、村内外に向けて、農林産物等の安全性、観光地としての安全・快適性の情報発信を行うなどの風評被害対策を行うとともに、各支援制度の適用条件などに基き、復興支援措置を行います。

